

さくらんぼの里

神戸市内に住む友人の家に招かれた。庭を案内されて驚いた。大きな木にすっぽりと網を被された「さくらんぼ」があった。目を凝らして見てみると所々に赤い実がついていた。1つ摘まんで食べさせてくれた。「これ1つ2000円くらいするかな」と。冗談を言っているように思えた。こんな小さなものが？彼はまじめな顔であった。

さくらんぼの歴史は古い。ヨーロッパでは紀元前から栽培されており、中国でも3000年前には既に栽培されていた。日本には江戸時代初期に中国より入ってきたが普及には至らなかった。ここ山形県には1875（明治8）年に、東京から3本のさくらんぼの苗木が入ってきてのスタートであった。

今では山形県はさくらんぼ栽培面積約2500ha（東京ドーム534個分）、生産量ともに日本一。全国収穫量の7割を占めている。さくらんぼの品種は全世界で1350種以上あるとされる。そのうち日本では栽培されているのは約30種前後で、そのほとんどが甘果桜桃である。佐藤錦、ナポレオン、紅秀峰、紅さやか等の品種が有名。

山形市内を車で走っていると至る所にさくらんぼ園が栽培されていた。車を止めてさくらんぼの木の下で写真を撮った。その美しい真っ赤な実は一本の木に何と5000個から10000万個ほども付くとのこと。まさに鈴生りとはこのことを言うのであろう。その一つ一つの色付きを見分けながら、傷をつけないように慎重にそっともぎ取っていく。収穫期は5月下旬から7月中旬頃で、出回り始めの5月には1粒数千円というニュースが出る。



撮影 2014 年夏

